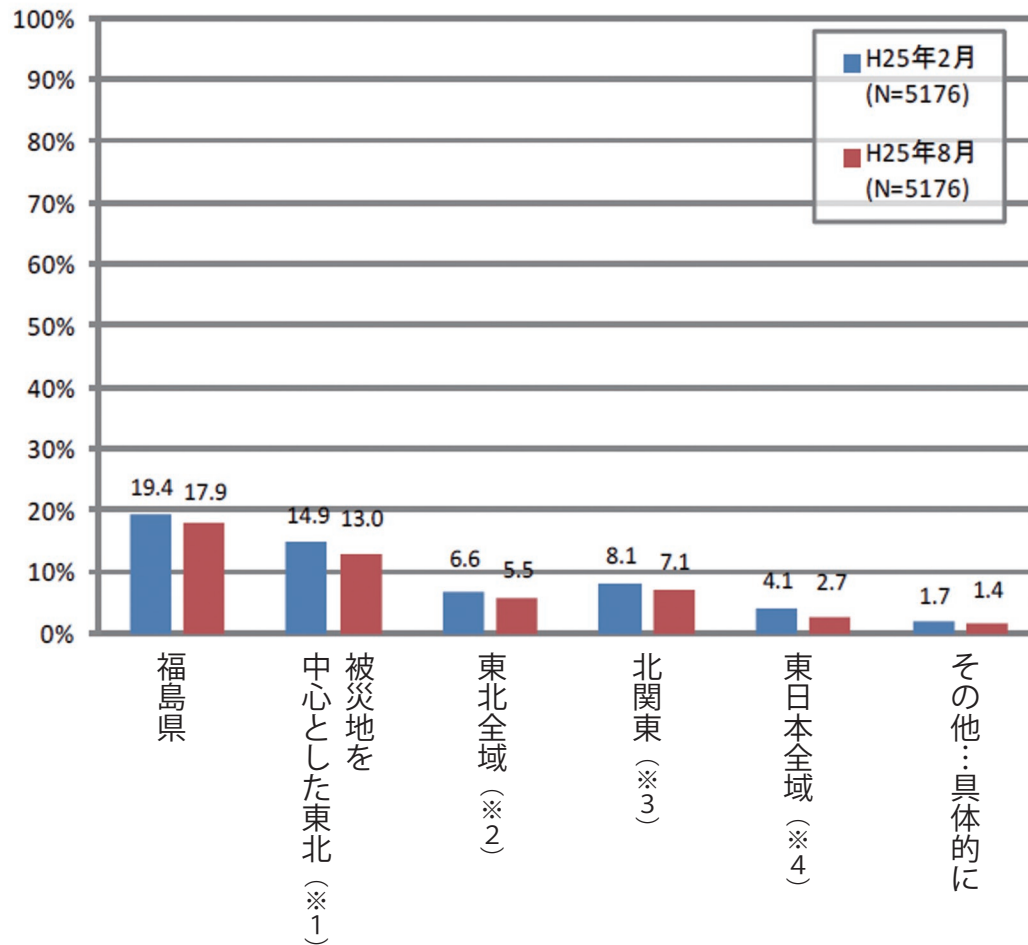


《食品を買うことをためらう産地のグラフ》



(※ 1) 被災地を中心とした東北：

岩手県、宮城県、福島県

(※ 2) 東北全域：

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

(※ 3) 北関東：

茨城県、栃木県、群馬県

(※ 4) 東日本全域：

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県

解説：風評被害

国内で製造された製品や農林水産物の買い控えや価格の下落、観光客の大幅な減少等を引き起こし、被災県内の企業等が県外へ流出するなど、根深く容易にはぬぐえない深刻な被害を被災地の産業と雇用に及ぼしています。

《食品中の放射性物質に関する基準値（放射性セシウム）》

食品群	一般食品	乳児用食品	牛乳	飲料水
基準値（ベクレル Bq/kg）	100	50	50	10

※放射性ストロンチウム、プルトニウムなどを含めて基準値を設定

《自治体^(※1)における食品等の検査結果(平成25年度)》

品目	検査点数	基準値 超過点数	超過割合
米	1,068万	28	0.0003%
野菜	14,713	0	0%
果実	3,745	0	0%
茶	424	0	0%
原乳	1,398	0	0%
牛肉	130,386	0	0%
豚肉、鶏肉、卵 その他の畜産物	1,065	0	0%
きのこ・山菜類 ^(※2)	6,250	193	3.1%
水産物 ^(※3)	14,599	249	1.7%

※1 「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」で検査対象となっている自治体(17都県)を集計(水産物のみ全国を集計)。

※2 超過するものは、栽培されているもの以外の、野生きのこや野生の山菜類が多いことが分かっています。

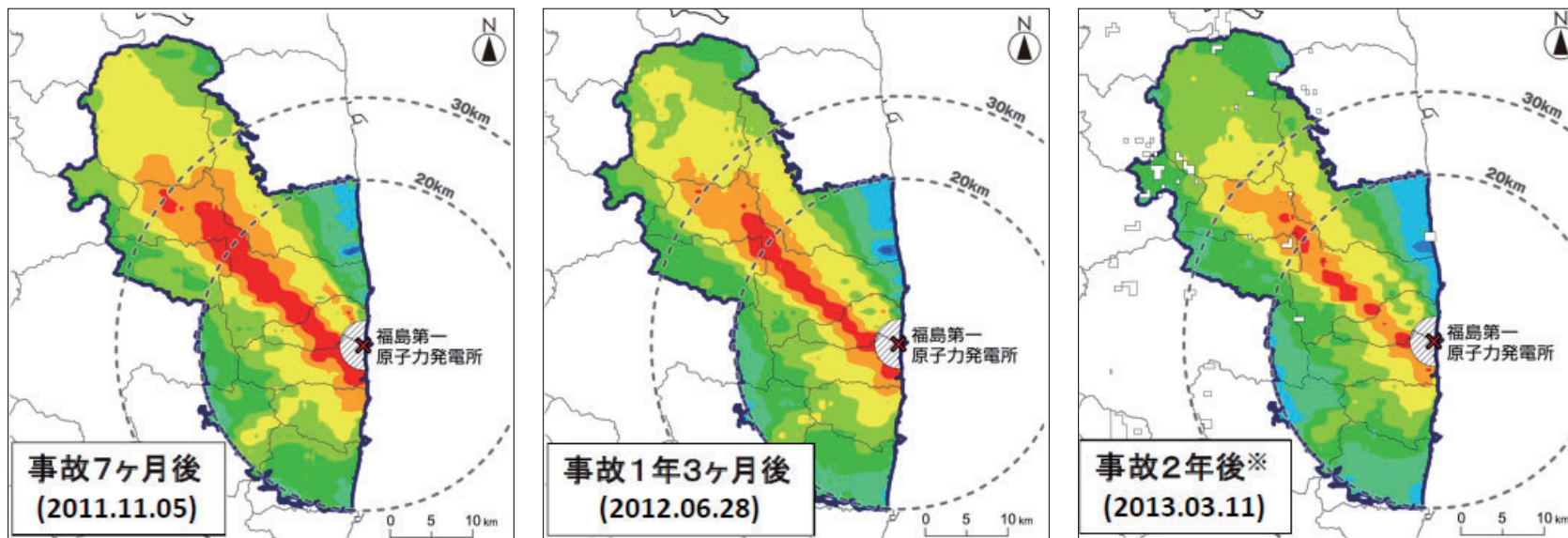
※3 水産庁のデータによる集計。平成23年度の17.2%から減少傾向にあり、超過するもののほとんどは、底層の海産魚や天然の淡水魚ということが分かっています。

《学校給食の安全》



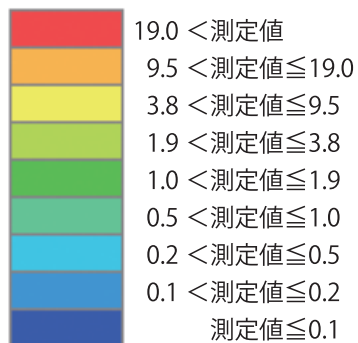
写真提供：福島県
(掲載ページ：中学生・高校生用 P.6)

《放射線モニタリング》



凡例

地表面から1mの高さの空間線量率
($\mu\text{Sv}/\text{h}$)



 測定結果が得られていない範囲

* 本マップには天然核種による空間線量率が含まれています。

※実線で囲まれた白色の領域は積雪等のあった箇所

出典：原子力規制庁「東京電力福島第一原子力発電所事故から2年間の航空機モニタリングの線量の推移について」(平成25年6月5日)より抜粋
(掲載ページ：中学生・高校生用 P.7)

《福島県伊達市における学校の除染作業》



写真提供：伊達市教育委員会
(掲載ページ：中学生・高校生用 P.7)

《ふくしまからのメッセージ》



出典：第 35 回全国高等学校総合文化祭（ふくしま総文）
総合開会式構成劇（平成 23 年 8 月）
（掲載ページ：中学生・高校生用 P.8）

《福島県の未来を担う子供の育成に向けた取組》



写真提供：福島県教育庁
(掲載ページ：中学生・高校生用 P.8)

《再生可能エネルギーによる地域の復興・再生》



提供：経済産業省
(掲載ページ：中学生・高校生用 P.2 P.8)